

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 19 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2021

課題番号：15K03025

研究課題名(和文)カナダ契約移民の輩出と渡航後の地域的展開をめぐる歴史地理学的研究

研究課題名(英文)A Historical Geographical Study on the Production of Canadian Contract Immigrants and Regional Development after Their Departure

研究代表者

河原 典史(KAWAHARA, Norifumi)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：60278489

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：1898年に創立された東京移民合資会社は、1907年に約1,500人の契約移民がカナダへ送出した。それらは宮城、神奈川、福井、鹿児島や沖縄県などの9県からの出身者であった。さらに、出身地での生業によって、渡航後には炭鉱夫と鉄道保線工に振り分けられた。カナダ太平洋鉄道の雇用者名簿や小切手などから、先に渡加した日本人リーダーとその部下からなる組織構造が判明した。

契約期間の満了後、鉄道契約移民はサケ缶詰産業をはじめとする他産業へと転業するケースが多かった。契約移民の輩出にあたって血縁・地縁関係を基礎とした集団移住が行われ、その後の移動と転業の諸相も、さまざまネットワークによって展開したのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で実践してきた歴史地理学的アプローチを駆使すれば、契約移民の輩出にあたって血縁・地縁関係を基礎とした集団移住が行われ、カナダでの契約終了にともなう移動と転業の諸相も、そのネットワークを維持しつつ展開していたことが明らかになる。

さらに、後発であった東京移民合資会社の鉄道契約移民は、20世紀初頭におけるカナダ太平洋鉄道沿線のアルバータ・マニトバ・サスカチュワン州に広がるカナダ平原の農業開拓に寄与したと思われる。このような契約移民の転業と拡散的移動の実証的研究は、単なる日本人移民史だけでなく、カナダ開拓史への新たな提言になるにちがいない。

研究成果の概要(英文)：The Tokyo Emigrant Limited Partnership Company, founded in 1898, sent about 1,500 contract immigrants to Canada in 1907. They were from only nine prefectures, including Miyagi, Kanagawa, Fukui, Kagoshima and Okinawa Prefecture. In addition, depending on their occupation in their home prefecture, they were assigned to work as coal miners and railroad maintenance workers after their arrival. The Canadian Pacific Railway's employment rolls and checks revealed an organizational structure consisting of the Japanese leaders who came to Canada first and their subordinates.

When their contracts expired, railroad contract immigrants often transferred to other industries, including the salmon canning industry. The contract immigrants were produced through mass migration based on blood and geographical relationships, and the subsequent movement and transfer of jobs were also developed through various networks.

研究分野：歴史地理学

キーワード：カナダ 日本人移民 契約移民 東京移民合資会社 日加用達会社 カナダ太平洋鉄道

1. 研究開始当初の背景

第二次世界大戦以前におけるカナダ日本人移民に関する先行研究は少なくない。しかし、先行研究で紹介されてきた滋賀県や和歌山県出身者の多くは、移民契約会社を介さない自由移民であった。そのためカナダ日本人移民史研究では、契約移民へほとんど焦点が当てられてこなかった。高村(1985)や佐々木(1999)などは、契約移民会社の設立と国策について論じているが、自己の意思での渡航や血縁関係者による呼び寄せで入国した自由移民との差異についてはほとんどふれていない。

カナダに渡った日本人には、出身地と現地での就業との間に一定の関係があった。大量の契約移民を受け入れた伐木業、鉱業や鉄道保線業に関わった日本人には、契約移民が多かった。このような仮説の実証を重ねる前提として、カナダへ移民を送出した契約移民会社を整理する必要がある。広島海外渡航会社、森岡商会、熊本移民会社、日本移民会社や東京移民合資会社などの移民会社は、日本各地から契約移民を海外に送り出した。しかし、会社ごとの輩出地や海外の需要地の特徴については、あまり明らかにされなかった。それは、歴史学を中心とする専攻研究では、外務省外交史料館に所蔵された「海外契約移民会社関係資料」などの文書から、移民会社の設立過程とその関係性を解明するに留まっていたからである。また、複数の契約移民会社を比較することがあまりなかったため、契約移民の輩出・受容構造に関する時代・地域差が明らかにされなかったのである。

その理由のひとつに、カナダへの契約移民の多くが、炭鉱夫や鉄道保線工であったことが指摘される。粗末な宿舎が充てられて山奥での厳しい作業に従事し、冬～春期の融雪時には雪崩災害の危険にもさらされた彼らは、契約期間が満了すると漁業や製材業などへと転業するケースが多かった。なかには、それ以前に転業や帰国するものもあり、その活動記録、特に日本語資料やオーラルデータが残っていないからであろう。そのため、David L. Jones(2002)や、John G. Woods(2010)など、近年のカナダでも日本人契約移民の実態は詳述されてこなかったのである。

最も重要な点は、先行研究が各年毎に整理された「移民取扱人ヲ經由セル海外渡航者名」の精査を怠ってきたことにある。つまり、一社毎に1,000人を超える場合もある契約移民のデータベースを作成し、その出身地を分析することがほとんどなかった。さらにいえば、この外務省史料には、契約移民の出身地は都道府県単位までしか記されていないので、よりミクロスケールの輩出構造については先行研究では明らかにされていないのである。

2. 研究の目的

これまで看過されてきたカナダへの契約移民について、移民会社の設立と移民の募集・輩出構造を明らかにする。さらに、契約終了後に彼らは当初の職種・居住地に留まったのか、それともいかに転業・転居したのかについて実証する。そして、日本人移民の地域的展開と、カナダの西部開発をめぐる移民政策を歴史地理学から解明することを本研究の目的とする。

3. 研究の方法

- (1) 「海外契約移民会社関係資料」をはじめとする外務省外交史料館資料から、アメリカとかかわるカナダへの契約移民会社の成立を明らかにする。
- (2) 『加奈陀発展大鑑・付録』や外交史料館所蔵の「海外旅券下附表」より、日本における特定地域からの契約移民の輩出構造について市町村レベル、さらには大字単位で把握する。
- (3) BC州アーカイブスやレベルストーク鉄道博物館などで所蔵を確認している Debits や Check などから、契約移民の組織化を理解する。
- (4) 『加奈陀在留邦人名簿』や『在加奈人人名録』などの日本人住所氏名録と Directory の併用によって契約期間の終了後の転業や地域的拡散を明確にする。

4. 研究成果

(1) 東京移民合資会社による契約移民の送出

東京移民合資会社は、カナダの日加用達会社と提携し、明治40(1907)年の6月から翌年1月にかけて約1,500名の契約移民をカナダへ送り出した。筆者は、外務省外交史料館に所蔵された『海外契約移民会社関係資料』に収められた「移民取扱人ヲ經由セル海外渡航者名」を精査し、そのデータベースを作成した。一部では、「海外旅券下附表」や

『加奈陀在留邦人名簿』・『在加奈人人名録』・『加奈陀発展大鑑・付録』などの住所氏名録を精査し、大字単位の出身地や家族構成まで明らかにした。

彼らの出身地は、わずか 10 県に限定されていた。最も多いのは 400 名を輩出した鹿児島県で、全体の約 4 分の 1 を占める。そして、266 名の熊本県と 175 名の宮城県に次いで、福井県から 154 名がカナダへ渡った。ほぼ同数で沖縄県出身者がみられ、以下は福岡・静岡・岡山県と続き、そして神奈川県と栃木県となる。横浜港を発った彼らは、およそ 1,000 名の鉄道工夫と 500 名の炭鉱夫とに大別できる。カナダ到着後に日加用達会社を経て、鉄道工夫はカナダ太平洋鉄道 (Canadian Pacific Railway、以下 CPR) の沿線、炭鉱夫はバンクーバー島のカンバーランドへ送られた。最多の輩出地である鹿児島県は半数ずつであるが、熊本・宮城県でもそのほとんどは鉄道工夫である。そして、4 位の福井県は 154 名の全てが鉄道工夫である。つまり、当時のカナダでは保線にあたる鉄道工夫の需要が大きかったのである。

(2) 福井県出身者にみる鉄道保線工の組織

東京移民合資会社による福井県出身者のカナダ契約移民について概観すると、嶺南地方出身者が圧倒的に多い。とりわけ、およそ半数を占める 72 名が三方郡出身である。郡内の契約移民数を多い順に並べると、北西郷村から 14 名、南西郷村から 12 名となり、続いて山東村の 9 名、耳村の 5 名が続く。つまり、その過半数となる 41 名が現在の美浜町域の出身者である。美浜町域から多くの契約移民が輩出された理由の一つに、当地の経済的基盤が指摘できる。当時の美浜町域では、養蚕に関わる農家は少なくなかった。ただし、海外への輸出も多かった生糸は市場での相場変化が大きく、景気の変動に左右されやすかった。

CPR では沿線の要地に鉄道基地が設けられ、そこには日加用達会社の要人が赴任した。各地では、下部組織としてギャングと称された組がいくつか置かれ、一組は 20 人程度の保線工で構成されていた。レベルストーク鉄道博物館には、当地における各組毎の保線工への Payroll Records (給与記録) が残され、そこには氏名や役職が付されている。それらを整理すると、Bookman (組長) と彼に配属された Labor (組員) がわかる。

7 人の美浜町域出身者が配属された濱野組の組長は、山口県大島郡蒲野村 (現在の周防大島町) の出身の濱野菊太郎なる人物であった。33 名の蒲野村出身者とともに濱野は、岡山市を拠点とする帝国移民合資会社の契約移民として 1899 (明治 32) 年 11 月 15 日にカナダへ渡った。当時 16 歳の濱野は、先達として英語を理解できるようになり、後に契約移民として新しくやってきた日本人鉄道保線工のリーダーになったのである。組長以下、27 人からなる濱野組には福岡県出身者が 4 人、滋賀・岡山県からも 1 人ずついた。出身地の不明者が 8 人いるものの、組長と同郷の山口県出身者は 2 人しかいない。そうすると、濱野組を支えていたのは 9 人からなる福井県出身者、しかも 1 人の敦賀町を除けばすべて美浜町域出身者であった。そして、その多くが 16・7 歳の若者だったのである。

(3) 鹿児島県出身者にみるサケ缶詰産業への転業

1907 年における東京移民合資会社による契約移民のうち、鹿児島出身者は最も多く、全体の約 4 分の 1 を占めた。横浜港を発った彼らは、およそ 1,000 名の鉄道保線工と 500 名の炭鉱夫とに大別できる。炭鉱夫となるのは加世田村を中心とする薩摩半島中央部、鉄道保線工は半島南部の枕崎村や指宿村、ならびに桜島周辺の鹿児島出身者であった。前者では、金・鉄鉱石など、鉱業に関わる生業が展開していた。それに対し、後者では海運業の拠点としての地域性が強かった。つまり、鉱山労働の経験者やそれを知る若者は炭鉱夫、その経験のない者は鉄道保線工として渡加後に配置されたようである。

3 年の契約を終えると、鹿児島県出身者においては、後者は他産業へ転業することが多かった。人里離れた山奥で落盤や倒木、とりわけ雪崩の危険性は南国の鹿児島県出身者にとって想像できない恐怖であったろう。そのため契約満了後、彼らは BC 州沿岸部のサケ缶詰産業へ転業することが多かった。ただし、バンクーバーを中心とする製材業界には、先達として滋賀県出身者を中心に多くの日本人が従事していた。それに対し、サケ缶詰産業では BC 州沿岸におよそ 100 カ所のキャナリーがあり、日本人の受容先としては重要であった。とはいえ、フレーザー川河口のスティープストーンでは、先駆者・工野儀兵衛の連鎖移住による和歌山県日高郡出身者が多くいた。そのため、鹿児島県出身者はスティープストーンから離れ、比較的新しく小規模なキャナリーへ従事せざるをえなかったと考えられる。

外務省外交史料館に所蔵されている外国旅券下付表によれば、フランスウィック・キャナリーでは肥後萬吉 (1884 年生) と田畑市次 (1889 年生) が CPR への契約移民であった。同様に鉄道契約移民であった田畑庄次郎 (1873 年生) は、このキャナリーにおいて、1916 年にフランスウィック・キャナリーと漁業ライセンス (漁業権) による雇用契約を結んだ。デルタ文書館 (Delta Archives) 所蔵された contract (契約書) によれば、漁船・漁具を賃貸され、庄次郎は週 6 日漁業に従事することになったのである。指宿村をはじめとする薩摩半島南部の出身者がほとんどを占めていた史実は、鹿児島県カナダ移民史を総合的に検討することから理解できるのである。

(4) 今後の課題

筆者が構築してきた歴史地理学的アプローチを駆使すれば、契約移民の輩出にあたって血縁・地縁関係を基礎とした集団移住が行われ、カナダでの契約終了にともなう転居・転業もそのネットワークを維持しつつ展開していたことが明らかになった。特に、後発であった東京移民合資会社の鉄道契約移民は、契約終了後に日本人がほとんどいなかったカナダ大陸横断鉄道（Canadian Pacific Railway、以下CPR）沿線で、カナダ中央平原における20世紀初頭の農業開拓に寄与したと思われる。このように、契約移民の転業と拡散的移動とカナダの開発との関係性についての実証は、単なる日本人移民史だけでなく日本・カナダ史への新たな提言になる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 河原典史	4. 巻 66-12
2. 論文標題 自著を語る5 『カナダ日本人水産移民の歴史地理学研究』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 99-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 61-1
2. 論文標題 「海からの歴史地理」研究の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史地理学	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 666
2. 論文標題 歴史地理学からみたカナダ日本人移民史研究とその課題 漁業移民から「水産移民」へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 230-244
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 2018
2. 論文標題 カナダにおける日系ガーディナーの先駆者たち（10） - 新渡戸庭園の造園をめぐる森勘之助と角知道 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Year of 2018 Membership Roster ,2018	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 30
2. 論文標題 20世紀初頭のカナダ西岸における日本人による漁村開拓 - バンクーバー島西岸のユクルーレットを中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館地理学	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 -
2. 論文標題 カナダへの移民	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本移民学会編『日本人と海外移住 - 移民の歴史・現状・展望 - 』	6. 最初と最後の頁 99-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norifumi KAWAHARA	4. 巻 -
2. 論文標題 Ship Names: Reeling the Identities of Japanese Fishermen in Canada	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tomoko Ozawa ed. Japanese across the Pacific and Beyond	6. 最初と最後の頁 247-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 2017
2. 論文標題 カナダにおける日系ガーディナーの先駆者たち(9) 幻の新渡戸庭園を造った人びと	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Year of 2017 Membership Roster	6. 最初と最後の頁 25 - 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 -
2. 論文標題 初期の日本人移民 - 江州ソーミル、熊本ヤマ、死ぬよりましかなヘレン獲り	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『カナダの歴史を知るための50章』	6. 最初と最後の頁 302 - 307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 -
2. 論文標題 ヴァンクーヴァー朝日	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『カナダの歴史を知るための50章』	6. 最初と最後の頁 334 - 335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 -
2. 論文標題 新渡戸庭園の造園とバンクーバー日本人社会の諸相 日本人ガーディナーの活躍」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『移民が紡ぐ日本 交錯する文化のはざままで - 』	6. 最初と最後の頁 80 - 102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 656
2. 論文標題 カナダ日本人漁業史研究をめぐる展望と課題 - 近年における北米の成果を中心に - 」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 646 632
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 2016
2. 論文標題 カナダにおける日系ガーディナーの先駆者たち(8) 幻の新渡戸庭園をめぐる記録の再検討	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 The Year of 2016 Membership Roster	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 149
2. 論文標題 バンクーバーにおける幻の新渡戸庭園 太平洋を渡った石燈籠	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 民俗建築	6. 最初と最後の頁 31 - 39
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻
2. 論文標題 幻の新渡戸庭園を造った人びと 忘れられたバンクーバーの日本庭園史	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 森隆男教授退職記念論考集刊行会編『住まいと人の文化』、三協社	6. 最初と最後の頁 15 - 33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 650
2. 論文標題 サケを運んだ薩摩人 - カナダのサケ缶詰産業における日本人移民史 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 123 - 138
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 2015
2. 論文標題 カナダにおける日系ガーディナーの先駆者たち(7) 幻の新渡戸庭園と石灯籠	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 The Year of 2015 Membership Roster	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原典史	4. 巻 645
2. 論文標題 20世紀初頭のカナダ西岸における塩ニシン製造業の歴史地理学的検討 是永・嘉祥家を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 119-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件(うち招待講演 10件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 カナダ日本人移民史を学ぼう 多民族による協働と日本人移民の特徴 -
3. 学会等名 北海道立千歳高校カナダ講座(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 カナダ日本人移民史における三尾出身者の再発見 - 『カナダにおける日本人水産移民の歴史地理学研究』の執筆にあたって-
3. 学会等名 カナダミュージアムオンライン講座 「移民研究でつながる」Vol. 3 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 鹿児島県出身者にみるカナダ日本人移民史の再考
3. 学会等名 日本カナダ学会 第44回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 第二次世界大戦以前におけるカナダ日本人漁業移民の展開をめぐる 歴史地理学的研究 和歌山県三尾出身を再考する
3. 学会等名 2019年度教育文化学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 カナダへ渡った指宿の人々 忘れられた指宿の歴史
3. 学会等名 指宿商工会議所 /いぶすき検定合格者の集い（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 研究成果を還元する 『東宮殿下御渡欧記念・邦人児童写真帖』の復刻から考える
3. 学会等名 京都民俗学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 ロジャーズ峠に散った若い命 - カナダに渡った日本人 (3) -
3. 学会等名 川西市生涯学習短期大学 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 日本庭園とガーディナー - カナダに渡った日本人 (4) -
3. 学会等名 川西市生涯学習短期大学 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 新渡戸庭園の造園をめぐる カナダ日本人社会
3. 学会等名 バンクーバー日系ガーディナーズ協会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 バンクーバーにおける 日本人ガーディナーの歴史的展開
3. 学会等名 日本カナダ学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 カナダ日本人移民史研究をめぐる歴史地理学的アプローチ - 資料の発見・収集とその活用 -
3. 学会等名 JICA横浜海外移住資料館 学術研究プロジェクト研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 石・紙・鉄と伯耆人 カナダへ渡った弓ヶ浜の人びと
3. 学会等名 米子市市立美術館シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 幻の新渡戸庭園 太平洋を渡った石灯籠
3. 学会等名 バンクーバー日系ガーディナーズ協会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 第二次世界大戦以前のサケ缶詰産業における日本人サケ運搬者 - 鹿児島県出身者の資料から -
3. 学会等名 地域漁業学会第58回大会（大分大会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 カナダの子供たち 『東宮殿下御渡欧記念写真帖』の発刊とその資料的検討
3. 学会等名 日本移民学会冬季研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 新・旧新渡戸庭園をめぐるカナダ日本人社会
3. 学会等名 マイグレーション研究会2017年3月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河原典史
2. 発表標題 カナダの魚食文化 日本人移民との関わりから
3. 学会等名 第449回国立民族学博物館友の会（招待講演）
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 河原 典史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 319
3. 書名 カナダにおける日本人水産移民の歴史地理学研究	

1. 著者名 河原典史監修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 クレス出版	5. 総ページ数 2,447
3. 書名 日本缶詰資料集 全5巻	

1. 著者名 河原典史・木下昭編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 文理閣	5. 総ページ数 256
3. 書名 移民が紡ぐ日本 交錯する文化のはざままで -	

1. 著者名 河原典史	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 297
3. 書名 カナダ日本人移民の子供たち 東宮殿下御渡欧記念・邦人児童写真帖	

1. 著者名 米山裕・河原典史	4. 発行年 2015年
2. 出版社 文理閣	5. 総ページ数 318 (146-162)
3. 書名 日本人の国際移動と太平洋世界 日系移民の近現代史	

1. 著者名 河原典史・日比嘉孝	4. 発行年 2016年
2. 出版社 クロスカルチャー出版	5. 総ページ数 413 (131-156)
3. 書名 メディア 移民をつなく、移民がつなく	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------